

川口将武研究室ゼミ紹介

(デザイン工学部 建築・環境デザイン学科)

「発想の仕方・計画論」を学ぶ。「学び方」を学ぶ。

岩田英士、荻野大亮、桑原夏美、小森貴登
柴田良太、中島倭希、中島悠喜、渡辺健吾

1. 研究室のテーマと進め方

「地域」や「みどり」を軸としながら、景観、環境教育、スポーツ、防災、歴史・文化、人口減少問題など様々な観点からそれぞれの興味のある研究を模索していきます。ゼミの前期では、ゼミ生全員で意見交換、共有の場を多く持ち、活発に議論を重ねることで、後期になって各自の研究に集中して打ち込めるよう研究テーマを詰めていくことができます。また、東大阪市役所の方々と一緒に街路樹の研究を行い、今後のあり方について意見交換をしたり、大東市の地域住民の方々と社会実験を行うなど、学外の方々とも積極的に関わりながらそれぞれの研究へと結びつけています。



2. 私たちが取り組む卒業研究の一部をご紹介します

私たちは緑のある空間を「何か良いなー」と感じます。また、人は緑の空間を五感で捉えています。その感じとった緑の空間を的確に表現できているのか疑問が残ります。もっと五感で感じとった直感的、感覚的な部分を表現することができれば、緑のある空間において感じる、「何か良いなー」の何かを明らかにできるのではないかと考え研究することにしました。

研究に際して、擬声語を意味する「オノマトペ」をヒントに、五感で感じとった直感的、感覚的な表現内容をアンケートで集め、テキストマイニングを進めていこうと考えています。(桑原夏美)

Jリーグは「地域に根ざしたスポーツクラブ」を理念の核として活動しています。Jリーグに所属しているクラブ(Jクラブ)は「ホームタウン」と呼ばれる本拠地を定め、地域社会と一体となったクラブづくりを行いながら、サッカーの普及や地域振興に努めています。

そこで私は、Jクラブ全40チームを対象とし、主にホームタウンで行う地域振興活動、社会貢献活動(ホームタウン活動)をリサーチすることで、どのような地域連携が生まれ、どのような地域づくりが行われたのか、その動向を探ることができないかと考え研究に取り組んでいます。(柴田良太)

3. 私たちが感じる研究室の魅力

(1) 将来のための姿勢づくり

川口先生の4回生実習では、これから社会に参画する上で大切になってくる「プレゼンテーション」をすること、「論理的に相手に物事を伝えることの重要性」について意識させられます。それは自分を表現するうえで最も基本的な誠意の示し方の一つです。その他にも期限を守ること、連絡を怠らないこと、相手の気持ちを考えられること、感謝の気持ちを忘れないこと等、社会人としての基本的な態度があることをここで改めて学びます。

★ゼミ生に、なぜこの研究室を選んだのか?聞いてみました。

- ・都市環境に興味があったため (おぎー)
- ・川口先生の人柄に惹かれたため (なっちゃん)
- ・社会人としてのマナーを身につけるため (しばちゃん)
- ・屋外に出てアクティブに活動のできる研究室だと感じたため (ゆーぎ)
- ・できる研究の幅が広いから (タカトゥー)
- ・学生一人一人を見てくれるから (なっちゃん)

(2) 楽しく学べる課外活動

川口研究室はゼミの一環として様々な楽しい課外活動をしています。

今年はまず、春に野崎駅周辺の街歩きと里山の散策、タケノコ掘りをしました。地域を知り、地域の自然に触れる事で、自分たちの大学のある大東市や自然に興味を持つきっかけとなりました。夏には天橋立と伊根の舟屋にゼミ旅行として行き、日本三景の眺望景観と伝統的建造物群保存地区の伊根の歴史・文化的景観を視察し、土地の雰囲気を感じることが出来ました。

このような課外活動を通して自然との触れ合いや、地域の特色を体感しながらの学びは、普段のゼミでは経験できない貴重な体験をする事ができます。

4. 最後にPR

卒業研究では先生の専門分野だけではなく、自分のやりたい研究のテーマがあれば積極的に進めさせてくれ、しっかりとそれぞれの研究に応じた指導をしてくれます。



学生一人一人の相談に対しても親身に対応してくれ、先生ともフレンドリーな関係を築くことができます。建築・環境デザイン学科の後輩の皆さんも、こんなに素敵な研究室に入ってみませんか?

